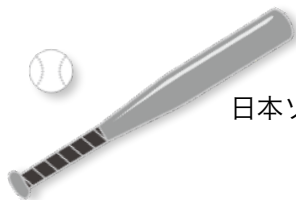




在仏日本人会 会報 N°314 2025年 7月・8月号

JOURNAL JAPON



第97回全パリ・ソフトボール大会 (2025年6月22日、29日)

日本ソフトボール協会会長杯並びにマイルド・セブン旗争奪戦
(在仏日本人会主催、日本トランス・ユーロ社協賛)



昨秋の第96回より6ヶ月以上過ぎ、春を迎えると若い選手達は早く試合をしたいと望む傾向にあり、一方50歳あるいは、それ以上のベテラン達はそろそろ引退を考え始めます。

両方の傾向を考えながらできるだけ多くの参加を促すにはかなりの苦労があります。今回は初め4月下旬の予定でしたが参加チームがほとんどなく、5月に変更すると「風薫る五月!」で家族旅行や別の楽しい予定でほとんどの日曜は埋まってしまう。そして漸く6月22日、29日の両日と決まりました。やはり50年近く続いている大会の実施を願っています。また、多くの先達の苦労に少しでも報いる望みもあります。

さて、初日6月22日になりました。Bois de BoulogneのBagatelleスポーツ広場は草が刈ってあり、大変ありがたかったです。しかし、ほとんど凸凹の虎刈り状態でした。いつもの場所よりLongchamp競馬場寄りになんとか落ち着きました。

-6月22日、好天。午後からは30℃を越す暑さでした。4チーム参加で予定の4試合を無事終わりました。全チーム1勝1敗でした。

-6月29日、午前中2試合の結果、決勝リーグはつぎのように行われました。

決勝 CHOCOBALL (日本) / PSCF (Philippine) 27α/6
3 / 4位 PARIS METS / AMBASSADE DU JAPON 19/17

<表彰監督及び選手>

在仏日本大使館チーム監督 小野正虎氏

PSCF センター	Mr. TONY	2度の美技とホームラン
投手	Mr. PHIL	3試合に対する好投
在仏日本大使館	Ms. ANJU	3RDの守備及び好打

<後評>

CHOCOBALL (日本) 眠れる獅子が目覚め素晴らしかった。

PSCF (Philippine) 豪球投手Mr. PHILとMr. Capatoyを擁し、良く健闘した。

PARIS METS (米加) 監督が代わり、初日は選手集めに苦労したが当大会随一の優勝回数を誇る古豪。

在仏日本大使館 惜敗はしたが、対CHOCOBALL戦、対PARIS METS戦は賞賛に値する。

最後になりましたが、日本人会事務局長高橋幸隆氏と事務局アルブイさんに感謝いたします。

実行委員：橋本勝義、西畑孝一、野口高大、柿崎直文(文責)



経験豊富なスタッフが 新生活をサポート

- 物件探し
- 電気、ガス、インターネット加入代行
- 電話通訳 など

国内引越も
承っております



至れり尽くせりのお引越
日本トランスユーロ
transeuro.jp



夏も休まず営業中

☎ 01-4058-1000
✉ sales@transeuro.jp

-特別寄稿-

絵を描く理由が、変わっていく

柴田 滋紀(しばた しげき) | にじいるクレヨン代表・画家

18歳のとき、私は画家になろうと決めました。

絵を描く理由は、大きく二つありました。

ひとつは「死への恐怖」。自分という存在の証を、何かこの世に残しておきたかったのです。もうひとつは、「夢中になれる感覚」。描くことは私にとって、無心になれる時間でした。絵具の手触り、鉛筆の線が紙に残る音、油絵の匂い。そのすべてが、なぜかとても心地よかった。

予備校ではクロッキーを1日何十枚も描き、気づけば10万枚を超えていました。大学、大学院、地元・石巻に戻ってからも作家として描き続け、少しずつ評価もいただけるようになりました。

けれど、2011年3月11日。東日本大震災で、すべてが変わりました。石巻の自宅は津波で流され、私は命からがら避難所に逃げ込みました。そして、絵が描けなくなりました。キャンバスを前にしても、手が動かない。描くことが、虚しく思ってしまったのです。

そんなときに始めたのが「にじいるクレヨン」でした。避難所や仮設住宅の一角に、子どもたちのための遊び場や居場所をつくる活動です。

出会った子どもたちの姿は今でも忘れられません。

声も出せず下を向いていた子。

親を亡くしたばかりで、不安と怒りを湛えた目をしていた子。

そんな彼らがクレヨンや絵の具に触れたとたん、少しずつ表情を変えていきました。

ある子は、絵に「家族に会いたい」と気持ちを描きました。

またある子は、「楽しい」と笑いながら、色とりどりの花を咲かせました。絵は心の声を外に出す「ことば」なのだと、子どもたちに教えてもらいました。

子どもたちの「変化」と「笑顔」

にじいるクレヨンでは、絵を描くだけでなく、泥あそび、水あそび、廃材工作、鬼ごっこ、焚き火、ただのおしゃべりも大切な時間です。遊びながら安心を取り戻し、少しずつ他者と関わる力を育てていきます。

言葉を発せなかった子が、半年後に友達と走り回る姿もあります。

自分の居場所があること、認めてもらえること、ただ「ここにいていい」と思えることが、どれほど子どもを支えるかを日々実感しています。

活動を続けるなかで、小学生だった子が大学生、社会人となり、今度はスタッフやボランティアとして戻ってくることもあります。

「今の子どもたちにとって、ここは絶対に必要な場所」と話すその姿に、大きな希望を感じています。

剣道道場と「子ども主体」

実家の道場「護国館剣道スポーツ少年団」は祖父が始め、父が二代目、そして今は私が三代目。今年で創立50周年を迎えました。

長らく逃げていた指導者講習を受け、19時間みっちり学んだ内容は「子どもの権利」や「子ども主体」の指導法——にじいるクレヨンで日々実践してきたものでした。

うちの道場も、バドミントンや鬼ごっこから始まる稽古、異年齢の交流、子どもと一緒に稽古内容を考える場面が自然にあります。

最弱にして、もしかしたら最先端の剣道道場かもしれません。

アートも剣道も、本質は「心と向き合い、人間を育てること」。だから、にじいるクレヨンと道場は同じ線の上にあると感じています。



フランスでの「出会い」と「報告」

長年にじいるクレヨンの活動に参加してくださっているボランティアの浜田さん(フランス在住)に調整いただき、今年3月、フランス滞在中に活動報告とワークショップの機会を得ました。

3月26日には在仏日本人会事務所にて、東日本大震災の支援に対する感謝と、にじいるクレヨンのこれまでの活動の報告をさせていただきました。

さらに、オーベル＝シュル＝オワーズでは、現地の子どもたち160人以上と紙版画のワークショップを実施。完全に「おんちゃんししょう」スタイルで(笑)、インクまみれになって描き、作り、笑いました。

子どもたちの無邪気さは日本とまったく同じ。違ったのは、社会全体の「子ども

を包む空気」でした。地域ボランティアや地元アーティストが授業に参加し、道では車が止まり、運転手が子どもに笑顔で声をかけてくれる。

「暮らしのなかに子どもがいて、アートがある」。その文化の存在に、胸を打たれました。



これから

にじいるクレヨンは、震災後の一時的な支援ではなく、まちの縁側のような存在を目指しています。

今年で活動は15年目に入りました。

これまで出会ったたくさんの子どもたちの笑顔が、今も私の中で生きています。

絵を描くこと、遊ぶこと、剣道をする、人と関わる——すべてが「生きる力」そのものです。

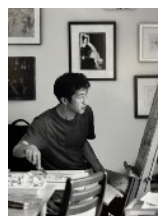
でもその意味は、18歳の頃とはすっかり変わりました。「死を怖れて描いた」過去が、「誰かの心に寄り添うために描く」未来へとつながっていく。

震災は、私から多くのものを奪いました。

でも、子どもたちや道場、地域との出会いが、「描く意味」を育て直してくれました。

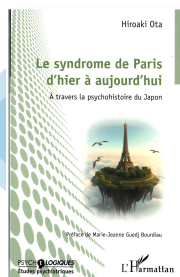
これからも、私は描き続けます。

自分のために、そして、誰かの心のために。



柴田 滋紀(しばた しげき)

画家・にじいるクレヨン代表。宮城県石巻市出身。日本大学大学院芸術学専攻科修了。震災後に子どもの居場所づくり「にじいるクレヨン」を設立。現在は剣道道場「護国館」三代目としても活動中。



「パリ症候群・フランス語版」 の出版が実現！

太田 博昭

一言すれば、感慨無量である。というのも、書き始めて以来、実に20年以上も費やしたからだ。多忙な診療のあい間に執筆することの難しさを甘く見た感が否めない。しかも、35歳になってから学び始めたフランス語である。学術論文とは異なり、一般の読者向けに書くにはそれなりの知見と技術を要することも知らなかった。執筆は何度も中断したが、その間、定期的にメディアからの取材申し込みが殺到した。1991年に日本語版を出版して以来、「パリ症候群」は絶えることなく、日本や欧米のジャーナリストの関心を引き続けてきたからだ。海外でメンタルトラブルに陥る日本人というユニークな話題が、彼らにとってはよほど興味があるのだろう。その結果、診療に差し支えるようになったため、以来、留守番電話を持続モードにして防衛せざるを得なくなった。

他方、フランス語版の執筆がもたついている間に、世相や時代背景が急速に変化した。ベルリンの壁が崩壊して東西冷戦は終結したが、共産党中国が躍進し始めた。英国がEUから離脱したかと思うと、トランプの登場と敗退、その後の再登場、等々、世界情勢の展開が目まぐるしい。その間に勃発したコロナ禍が私たちの日常生活を激変させ、ウクライナ戦争は未だに収束に至らない。日本は安倍元総理の暗殺後、急速に左傾化し始め、LGBT「騒動」に振り回された。このような情勢下で、パリ症候群はどうなったであろうか。

そもそもパリ症候群とは、日本のバブル経済期に、フランス・パリに過剰な憧れや思い入れを抱いた20-30代の若い未婚女性が、渡仏後の厳しい現実に直面して危機的なカルチュアショックに陥り、異文化不適応に至った病的な現象である。したがって、心身症のような症状から不安・パニックや抑うつ症状のほか、幻聴を伴う被害妄想のような症状まで出現するが、パリ症候群は精神医学上の病名ではない。あくまでも症状の集合であり、状態名である。ならば、バブル経済の崩壊と共にパリ症候群は消滅したのかといえば、さにあらず、現代に至るまで持続している。時代の変遷に伴い表層は変化しているが、深層はほとんど変わらない。これは、日本人がフランス・パリに抱く過剰な憧れや思い入れが続く限り、危機的なカルチュアショックが持続するからである。それ故、フランス語版では、バブル経済期とその崩壊後を境に、パリ症候群を古典型と現代型に区分した。

古典型の特徴は、20-30代の未婚女性が、アンアンやノンノなどの女性週刊誌に煽られて、「ちょっと住んでみたい」とパリにきたものの、厳しい現実に直面してメンタルトラブルに陥ってしまう、というのがその典型的なストーリーである。その結果、「フランス大好き…フランス人大嫌い」となるが、帰国を促しても拒絶する。日本の家族や友人に「パリ生活を満喫している」と書き送っているのが、メンツが立たないからだ。

他方、パリ症候群の現代型では、フランス・パリへの憧れや思い入れは古典型ほど強烈ではない。年齢も20代から50代に拡散している。しかも、古典タイプに加え、バツイチやバツニの離婚女性が急増した。彼女たちの真の渡仏目的はパートナー探しである。したがって結婚願望が強いが、破局に至るケースが多く、ハーグ条約が批准されてからは、特に子どもの処遇を巡る裁判が多発している。また、普通の留学研修生でも、バブル経済の崩壊後は親からの支援が期待できないため、バイトで生活費を工面せねばならず、心身の負担が無視できない。なかには、留学中の滞在費を短期間で稼ぐため、日本でソープやキャバクラなどの水商売に身を投じるケースがあり、渡仏前に心身に疲弊している事例も少なくない。

1991年に出版した日本語版では、戦後の自虐史観である「東京裁判史観」を基盤としている。しかしながら、フランス語版では戦後史を再検討し、自虐史観から脱却した。その点、フランス語版は日本語版の単なる翻訳ではなく、かなり加筆している。特にグローバリズムの弊害については詳しく言及した。そのため、本の構成を二分割し、前半に「日本人の精神史」を当て、後半で「パリ症候群の再分析」を試みた。

最後に、パリ症候群の向後について予測したい。結論から言えば、パリ症候群は減少するであろう。何故ならば、インターネットの広汎な普及につれ、フランス・パリの実態が暴露されてきたからだ。現実離れた憧れや思い入れが減少すれば、それに起因する危機的なカルチュアショックも減少する。実際のパリにはシックな面と同時に負の側面も多々あり、特に昨年のパリ五輪を巡る諸々のネット記事は、「おフランス」というイメージが単なる幻想に過ぎないことを実証したのではないだろうか。

しかしながら、インターネットが現実を露骨に描写するあまり、人間の想像力が貧困化するならば、それは私たちにとって幸せと言えるであろうか？



略歴：

1949年2月25日生れ、北海道出身。道立札幌医科大学卒業後、同医大付属病院精神科勤務、北海道砂川市立病院精神科勤務を経て、1984年3月、仏政府給費留学医師として来仏。メインテーマは「海外邦人のカルチュアショックとその対策」。1985年4月、在仏日本大使館と提携して海外邦人のメンタルヘルス対策を開始。1988年10月、サンタンヌ病院に邦人専門の精神科外来を設置。1989年6月、パリ15区に医療相談室を開設。1991年より大使館顧問医に就任。1991年、トラベルジャーナル社より『パリ症候群』を出版。渡仏以来約40年、フランス・パリはじめ欧州全域、北アフリカ、中近東、アフリカ諸国など、西半球に駐在・渡航する日本人とその家族や国際カップルの精神保健対策に従事してきたが、2023年にリタイアした。以来、執筆に専念し、2025年4月、L'Harmattan社からパリ症候群のフランス語版を出版した。

補 習 校 だ よ り

5月11日(日)にパリ花公園で遠足を開催しました。みんなでお弁当を食べ、エッグハント、大縄跳び、だるまさんが転んだ、ハンカチ落としなどで遊び、楽しい時間を過ごしました。



6月6日、日本大使公邸において、下川眞樹太大使より、本校飯田隆一校長に対し、日仏間の相互理解および友好親善に寄与した功績を称え、在外公館長表彰が授与されました。

パリ日本文化会館 (Maison de la culture du Japon à Paris) 事業案内 (2025年7月10日～10月31日)

パリ日本文化会館 事業案内

【展示】

モノのエコロジー 日本のアーティストとその環境へのまなざし～1970年から今日まで～

日時：4月30日（水）～7月26日（土） 会場：2階展示室

入場自由・無料

内容：高度経済成長期の1960年代末に日本で始まった現代美術の動向である「もの派」や、同時代に起こった国際的な前衛芸術運動「フルクサス」における日本の作家の活動と、現代の作家を結び付け、キュレーター陣独自の視点で、もの与人、ものと環境、人と環境の関係性を問い直す展覧会です。11組のアーティストが1970年代から今日まで、枕木・段ボール・レシート用紙・金属・オーディオ・ビデオなど、様々なメディウムを使って、それぞれどのようにして彼らの「環境」をとらえてきたかに迫ります。

カラスのしなやかさ——ローレンヌ・チュルシ写真展

日時：4月29日（火）～7月31日（土） 会場：地上階ホール 入場自由・無料

内容：北海道に渡り、いまのアイヌの人びとや風景をカメラに収めたフランス人写真家・ローレンヌ・チュルシによる写真展示。現代のアイヌ生活文化を出発点に、アイヌ民族のアイデンティティや精神性に迫ります。6月11日（水）にはアーティスト・トークも。

写真展～日本庭園の心

日時：9月2日（火）～9月27日（土） 会場：地上階ホール 参加費：無料

内容：本写真展では、日本庭園の多様な様式とその美しさを紹介します。池泉回遊式庭園、苔庭、枯山水、茶庭、文人庭園、現代庭園など、それぞれの庭が独自の美意識と思想を宿しています。四季折々に表情を変える庭は、それぞれに異なる魅力を放ちます。本展では、写真を通して、日本庭園の静けさや想像の世界に触れていただけます。

いけばな展示

日時：9月30日（火）～10月4日（土） 会場：地上階ホール 入場自由・無料

高畑勲 今日のアニメーションのパイオニア―戦後からスタジオジブリまで

日時：10月15日（水）～2026年1月24日（土） 会場：2階展示室

参加費：一般7€／割引5 €

内容：1985年に宮崎駿、鈴木敏夫と共同でスタジオジブリを設立し、半世紀にわたって日本のアニメーション界を牽引し、国際舞台へと躍り出た、日本アニメーションの発展にとって重要なアニメーションの巨匠、高畑勲。『アルプスの少女ハイジ』、『火垂るの墓』、『かくや姫の物語』などを手掛けた同氏の足跡を、制作ノート、絵コンテ、原画、セル画、映像などによって明らかにします。

バンダイのプラモデルの世界

日時：10月21日（火）～11月15日（土） 会場：地上階ホール 参加費：無料

内容：ガンダムは1980年に誕生し、今年で45周年を迎えるプラモデルの代表的存在。『機動戦士ガンダム』の世界観を立体化し、世代を超えて親しまれている。そのものづくりを支えるのが、“ホビーのまち”静岡にあるバンダイホビーセンター。企画から生産までを一貫して行い、高い品質と技術力を実現している。本展示では、プラモデルの魅力とその歩みを紹介する。

【公演】

戦後80年記念・新作能「長崎の郵便配達」

日時：10月9日（木）・10日（金）20時、10月11日（土）15時

会場：大ホール 参加費：一般20€/割引18€/会員16€

内容：長崎で16歳の時に郵便配達中に被爆し、その後生涯をかけて核廃絶を世界に訴え、生前には日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）の代表委員を務めた谷口稜嘩（スミテル）。その谷口稜嘩と元英国空軍パイロットでノンフィクション作家のピーター・タウンゼンドの交流を、タウンゼンド氏の娘のイザベル・タウンゼンドが30年の時を経て長崎に赴いて迎えるドキュメンタリー映画『長崎の郵便配達』（監督：川瀬美香、製作：2021年）が製作されました。この数十年に渡る物語から深いインスピレーションを得た能楽師により製作される新作能を、戦後80年の節目にあわせ、当館大ホールで上演します。

【映画】

岩井俊二監督特集

上映期間：7月2日（水）～7月12日（土） 会場：小ホール 参加費：一般6€/割引3€

内容：文学にポップカルチャーや少女漫画などの影響が織り交ぜられた 世界観と独特の美意識で、岩井俊二監督（1963-）は日本に留まらず、アジアやアメリカでカルト的な人気を誇ります。劇場 長編映画デビュー作『Love Letter』の公開から30年の節目の年に、フランスでははじめてとなるレトロスペクティブを開催。

高畑勲監督特集

上映期間：10月21日（火）～31日（金） 会場：小ホール

参加費：一般6€/割引3€ 10人以上の子どもグループは無料

内容：10月15日～2月7日まで開催される「高畑勲 今日のアニメーションのパイオニア―戦後からスタジオジブリまで」展に合わせて、高畑勲監督にまつわる映画作品をお届けします。

【講演会・セミナー・シンポジウム】

日仏朗読会「アンドレの翼」

日時：9月19日（金）18時～20時半 会場：大ホール 参加費：10€

内容：1936年11月、フランスの冒険飛行機家、アンドレ・ジャビーはパリ・東京間100時間飛行に挑戦したが、悪天候のため佐賀県と福岡県の境にある脊振山に墜落、瀕死の重傷を負う。脊振村人らが山中から迅速に救出し、翌日九州大学病院へ搬入し、一命をとりとめたアンドレは、約4ヶ月後にフランスポクールに無事帰郷する。この事故は日本国内で大きなニュースとなり、その後日本とフランスの間には温かな交流と絆が生まれた。

アンドレが果たせなかった夢を90年後に実現しようと、彼が操縦していたフランスの名機、コードロン・シムーンを復元して、飛べなかった佐賀―東京を飛ばそうという「赤い翼プロジェクト」が現在進行している。本公演では、コードロン・シムーン復元協会会長のステファヌ・ランテール氏が話し手、副会長のニコラ・ジャビー氏が聞き手となって、復元の進捗状況を1時間ほど講演したのち、朗読舞台に移る。朗読舞台は、第1部はヨウコ（青木裕子）とダフネ（Vanda Benes）による対話、第2部はジャビー一家の歴史とアンドレの飛行機事故に至る叙述、第3部は再び二人の対話からなる。

講演会&試飲会「高知柑橘リキュールの秘密」

日時：9月25日（木）17時半～20時 会場：小ホール及び地下3階フォワイエ

参加費：12€

会場：日本南部にある高知県は、温暖な自然環境に恵まれ、ゆず、小夏、文旦、直七など多くの柑橘類を生産しています。種類豊富な柑橘の果汁と地酒とのブレンドで作られるリキュールは、甘酸っぱくとても爽やかな飲み心地です。本講演会では、ボルドーの日本食レストランOBAと酒スクールOtsukimiのオーナーで、酒ソムリエのクロエ・カゾー・グランピエール氏が、高知の柑橘リキュールの美味しさの秘密をご紹介します。後半部では、高知柑橘リキュールに加え、Kura Masterで審査された1500種の中から100銘柄に及び和製アルコールの試飲を楽しめます。そして、最優秀にあたるプレジデント賞も試飲ができる貴重な試飲会です。

「目の見えない白鳥さんとアートを見に行く」

日時：10月4日（土）15時～17時 会場：小ホール（地上階） 参加費：予約制無料

内容：目の見えない人はどうやってアートを見るのだろうか？そんな疑問とともに白鳥氏と美術館を巡った経験と思索を描いた日本で話題の『目の見えない白鳥さんとアートを見に行く』の著者・川内有緒が、見えない人と見える人が一緒に見ることの魅力や意義、面白さを映像や写真を交えながら楽しく語ります。

「日本とわたし～好きを仕事にするには？」

日時：10月4日（土）15時～17時 会場：小ホール（地上階） 参加費：予約制無料

内容：日本語や日本文化を学ぶことで、どのようなキャリアを実現できるだろうか。学生を主な対象とした本イベントでは、日本語や日本学を学び、活躍するAurélien Estager（漫画翻訳家）、Camille Lé（ヴィラ九条山）、Candyce Vandeville（日本語教師）、César Castellvi（パリ・シテ大学准教授）を講師に招き、「日本」と繋がりがなく働くとはどういうことか、「学び」や「好き」をどのようにキャリアへ繋げられるか、それぞれの経験を通して、その可能性を探っていきます。なお、11月12日（水）には在仏日本企業で活躍するフランス人を講師に第2弾を行います。

「『静かな大地』～池澤夏樹を迎えて」

日時：10月10日（金）18時30分～20時 会場：小ホール（地上階）

参加費：予約制無料

内容：小説『静かな大地』（Atelier Akatombo出版、コリーヌ・カンタン訳）のフランスでの出版を記念し、作家・池澤夏樹氏を迎えます。「静かな大地」は明治初期、開拓政策のもと北海道に移住することになったある侍の家族三代に渡る物語で、池澤氏は自身の先祖の物語をもとに、アイヌ民族と協力して模範的な農場を築いた宗像兄弟の繁栄と衰退を描きました。

「高畑勲 今日のアニメーションのパイオニア―戦後からスタジオジブリまで」展

オープニング記念講演会

日時：10月14日（木）18時～19時半 会場：小ホール 参加費：予約制無料

内容：10月15日～1月24日まで開催される「高畑勲 今日のアニメーションのパイオニア―戦後からスタジオジブリまで」展のオープニングを記念して講演会を実施します。

【ワークショップ】

御家流香道

日時：9月11日（木）～13日（土）15時～、17時半～ 会場：茶室 参加費：20€

内容：香道御家流二十三世三条西堯水家元の腹心である、小畑洋子師範と細川好太郎師範がパリで香道ワークショップを開催します。今回のイベントは、特別に日本香堂創設40周年を祝して行われ、香道御家流二十三世三条西堯水家元が創作された新作「麗春香」を体験できます。そして、この記念の際に宗家に命名した銘香木「羅国しらべ」も出香します。この香りは洗練さ、複雑さ、はかなさといった日本の美意識を感じさせてくれます。イベントご参加の際、香水などの身に着けるフレグランス類のご利用をご遠慮いただくようお願い致します。

日本伝統の味：蕎麦・薬味・出汁

日時：10月4日（土）11時半、13時半、15時 会場：レセプションホール 参加費：25€

内容：代表的な日本料理の一つである蕎麦、そして蕎麦の味を引き立たせるのが、薬味と出汁です。これらの日本料理における役割を発見しませんか？フランスのロワール地方で日本野菜を栽培している東海林杏奈が薬味について、東京築地の老舗の海苔問屋である丸山海苔店パリ支店の丸山真紀が出汁についてのお話をさせていただきます。その後、越前蕎麦で有名な福井手打ち蕎麦愛好会による蕎麦打ちのデモンストレーションをお楽しみいただけます。薬味たっぷりの手打ち蕎麦の試食とそば茶の試飲つきです。

篆刻

日時：10月11日（土）13時～15時半、16時～18時半 会場：教室2 参加費：43€

内容：篆刻は書道の一分野の、最も小さな芸術です。古来より「方寸の世界に宇宙を宿す」と言われるように、ほんの数センチの小さな空間の中に壮大な世界が広がります。今回のワークショップでは篆書、またはかな文字で、お名前またはご希望の字を彫ります。世界でひとつ、オリジナルの篆刻印は、作品や手紙にサインとして用いたり、本や持ち物に押したり、使い方はアイデア次第です。 さらに印面を守るための「はかま」も作ります。

パリ日本文化会館 (Maison de la culture du Japon à Paris)

事業案内 (7月10日～10月31日) 続き

子ども向け「紋切りバッグ」
日時：10月21日（火）13時～15時半、16時～18時半 会場：教室2 参加費：15€
対象：6歳以上（9歳以下のお子さんは大人の同伴要。チケット購入不要）
内容：紋切りとは江戸時代（1603～1868年）に流行した遊びで、折り紙や千代紙などを折り畳んで切り抜くと様々なかたちの文様が現れます。これらの文様は雪の結晶、星、花、動物など、自然をモチーフにしたものが多く、着物や暖簾、てぬぐいなどの装飾に用いられています。本ワークショップでは、布を使った紋切りの技法を学び、日々の暮らしで活用できるトートバックに張り付ける創作をご体験いただけます。

子ども・親子向け「プラモデルの体験会」
日時：10月22日（水）～24日（金）13時～14時、14時～15時、16時～17時
会場：教室2もしくはレセプションホール 参加費：予約制無料
対象：6歳以上（7歳以下のお子様は大人の同伴が必要）
内容：日本で高い人気を誇るホビー「プラモデル」を実際に組み立てて楽しめるワークショップです。今回はガンダムに限らず、さまざまなキャラクターやノンキャラクターのキットをご用意。BANDAIならではの多彩なラインナップから、自分だけの一体を選んで体験できます。近年は技術の進化により、接着剤や工具を使わず、パーツをはめ込むだけで組み立てられるキットが中心になっています。はじめての方でも安心してご参加いただけます。また、塗装やパーツの差し替えによるカスタマイズも可能で、自分だけのオリジナルモデルを作る楽しさも、プラモデルの大きな魅力のひとつです。集中力や創造力を養うきっかけにもなるかもしれません。ぜひこの機会に、プラモデルの奥深い魅力を体験してみてください！

絞り染め入門
日時：10月25日（土）13時～14時半、15時～16時半 会場：教室2 参加費：23€
対象：6歳以上（9歳以下のお子様は大人の同伴が必要）、大人単独参加も可能
内容：「絞り染め」は、世界各地に古くから伝わる模様染めの技法です。日本でも奈良時代から庶民に親しまれ、室町時代以降は繊細かつ絵画的要素の高いうつくしい模様染め技術が多様に発達し、高級な織物にも用いられるようになりました。現在、国際的に『Shibori』と呼ばれるほど世界に類を見ない表現豊かな日本伝統の技は、脈々と各産地で受け継がれています。制作工程は、布を縫い縮めたり、巻いたり、畳んで挟むなど圧力をかけた状態で布を染めることで、圧力のかかった部分に染料が染み込まないようにして模様が作られます。本ワークショップでは、子供でもできる簡単な技法で手軽に楽しめる絞り染めをご体験いただけます。

マンガの描き方を学ぼう！
日時：10月28日(火)～10月31日(金) 14時～17時 会場：教室2
参加費：40€（全4回） 対象：10歳以上
内容：マンガキャラクターを作ってみよう！ワークショップでは次のことを学びます：
●顔の描き方の基本（正面、横顔、斜め）を学ぶ ●「ちびキャラ」（デフォルメされたキャラクター）の作画 ●人体のプロポーションの理解 ●葉表情の描き分け ●マンガのコマ割り 本ワークショップではタブレットは使用しません。以下の物をご用意ください：0.5mm・0.8mmのシャープペン／ペン、マンガライナー／黒ペン、消しゴム、鉛筆削り、色鉛筆／カラーマーカー、定規など。※用紙はこちらでご用意いたします。講師：トマ・ブーヴレ氏（『黄金の城 エル・ドラド』『ガイド』作画担当）

子ども向け「俳句を作ってコンクールへ応募しよう！」
日時：10月31日（金）14時～15時半、16時～17時半 会場：教室2 参加費：予約制無料
対象：6歳～12歳 内容：一瞬の感情や想いを言葉で表現する俳句。俳句を詠んで「世界こどもハイクコンテスト」（JAL財団主催）に応募してみませんか？ このアトリエでは俳句の作り方をお教えします。今回の俳句のテーマは「おと」。想像力全てを使って「おと」について自分の言葉で俳句を作って みてください！ デッサンに必要な画材はご用意いたします！ JAL財団 第19回世界こども俳句コンテストについて：
<https://www.jal-foundation.or.jp/jp/haiku>

【生花特別事業】
パリと日本を秋のいけばなで繋ぐ
日時：10月14日～18日
四季折々の草花を愛で日々の彩とする日本伝統の文化、いけばなは、フランスでも多くの人々に愛好されています。いけばなの三大流派と言われる小原流から小原宏貴家元が来仏し、作品展示やシンポジウム、ワークショップを通して、華道の真髄を紹介します。華道の奥深い世界を五感で体験ください。

展示
10月14日～15日 「ミニ生け花と投入れ花」展
地上階エントランスホール / 11時～19時 入場自由・無料
10月16日～18日 「秋のいけばな」展
地上階エントランスホール及び地下3階フォワイエ/11時～19時（フォワイエは18日18時まで）入場自由・無料

上映会 いけばなーその多様性を探る
小ホール/入場自由・無料/30' / ループ上映/仏語字幕
10月15日（水）及び16日（木）：14時～18時
10月18日（土）：16時半～18時半
本ドキュメンタリーは、ジャポニスム2019いけばな事業に参加された5流派家元を追って制作されました。

ワークショップ
10月16日（木）11時半及び14時半
レセプションホール / 料金50€
小原宏貴家元が丁寧に一人一人指導します。

講演会
10月17日（金）18時～19時半
小ホール/入場無料・予約制
小原宏貴家元が草花との対話、彼にとっての生け花について語ります。

パフォーマンスデモンストレーション
10月18日(土) 15時～16時半 大ホール/料金20 €
小原宏貴家元が舞台上でいけばな作品を制作し披露します。
＊以下についての詳細は、掲載サイトをご覧ください。

【教室】 <https://www.mcjp.fr/ja/agenda?subsections=cours>
囲碁教室 裏千家茶道-茶の湯 裏千家茶道教室 表千家茶道-茶の湯 表千家茶道教室-立礼 日本庭園教室 生花教室 書道教室 日本画教室 布ぞうりワークショップ 折り紙ワークショップ 日本舞踊教室

【日本語講座】
<http://www.mcjp.fr/fr/langue-japonaise/apprendre-le-japonais>

【JF にほんご eラーニング など】
https://www.mcjp.fr/fr/langue-japonaise/apprendre-le-japonais/cours-en-ligne_1

<パリ日本文化会館の催しに関するお問い合わせ>
火曜日～土曜日、11時～19時 問合せ先：TEL 01 44 37 95 01
所在地：101 bis, quai Jacques Chirac, 75015 Paris
<http://www.mcjp.fr/>

*日本人会発行のAMICJカードの提示でMCJP会員価格の適用が受けられます。

<<在仏日本人会2024年会計報告>>

去る7月4日の理事会・総会におきまして2024年決算及び2025年予算が承認されました。

収入	2024年(€)	2025年予算(€)
会費	106,598.99	108,300.00
活動費	131,640.10	124,000.00
日本語補習校	142,436.65	142,000.00
預金利子	626.36	516.00
その他	7,100.00	20,700.00
定期利子	20,542.98	25,600.00
総計	408,945.08	421,116.00

支出	2024年(€)	2025年予算(€)
総務費	135,156.71	135,851.00
施設費	59,975.97	62,400.00
活動費	99,300.24	95,400.00
日本語補習校	98,311.22	98,600.00
税務費	0.00	0.00
その他	6,732.67	7,000.00
定期利子税	4,930.00	5,175.00
残額	4,538.27	16,690.00
総額	408,945.08	421,116.00

40名の会員の方より1490€協力金をいただきました。
篤く御礼を申し上げます。

・日本人会理事一覧は、下記のサイトをご覧ください。

<https://zaifutsunihonjinkai.fr/about-nihonjinkai/rjikai/>

新刊案内、
アトリエやイベント情報は
@JunkuFr



営業時間 月～土 10時～19時

Librairie japonaise JUNKUDO
18 rue des Pyramides
75001 Paris France
Tel: 01 42 60 89 12
Mail: contact@junku.fr



『僕には鳥の言葉がわかる』
鈴木俊貴 著
小学館



舞台裏より愛をこめて vol.23

「Théâtre NÔGAKU の新たなカタチ？」



一年の前半後半で一度ずつ、年2回主催公演を打つゾ！というモンマリの野望を実現すべく、ここ数年、紆余曲折ありながらもコンスタントに開催することが叶い安堵しておりました矢先、リビ借りしておりましたいつもの劇場での希望日が塞がっており、別日を提案されるも、その日はモンマリの予定が塞がっていて…と、ここに来てにっちもさっきもゆかぬ状況を迎えておりました。他の劇場が空いておりまして拝借料がばらばらに高く、個人レベルで活動しております私共にとりましては到底手の届かぬしるもの、結局予定していた5月公演は残念ながら見送ることとなり、次回は11月16日(日)開催ということで話がまとまりました…ので皆さま！予定帳へ是非今からメモメモどうぞよろしくお願い申し上げます！！

さて、上半期の公演機会を失いモンマリしょんぼり気味ではございましたものの、それでもありがたいことに、“Théâtre NÔGAKU” パリ公演という別口のお仕事を日本サイドより頂戴し、こちらへは息子が携わせて頂く運びとなりました。

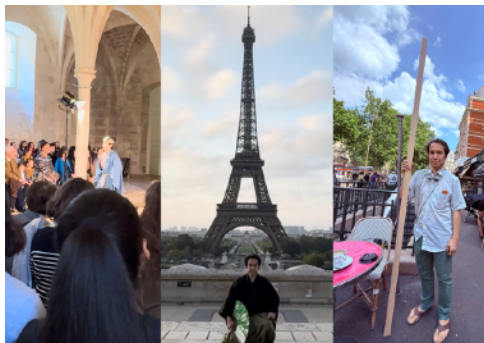
能楽協会主催の“Un Nôtre Japon”は、13世紀に建立されたパリ5区の元神学校コレージュ・デ・ベルナルダンの美しいアーチ連なる身廊で3月末に開催され、能上演と併せて、能装束・面の展示そして能楽体験ワークショップが行われました。その中で水先案内人として、息子は開幕宣言、場内整理、仏語で能『黒塚』の前半解説、そしてアイ狂言を勤めさせて頂きました。

“能楽”とは能・狂言の総称でございまして、フランス公演では“Théâtre NÔGAKU”というタイトルにて、通常一演目60～90分ほどの上演時間でお届けしております。今回新たな試みとして、能『黒塚』の前場と言われる物語前半部分の導入や登場人物の紹介、舞台設定などを、息子が仏語の芝居仕立てでお届けし、日本語でのアイ狂言も勤めながら後場へ、という画期的な演出法が取り入れられました。字幕導入困難な会場環境を逆に取り“Théâtre NÔGAKU”の新たなカタチが生まれた瞬間でございました。

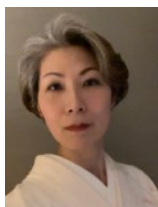
定番の能楽紹介を大前提としつつ、今回イレギュラーなスタイルにてお届けすることで、能楽がより演劇的に地元の皆さまに伝わりましたように感じ、また、息子にとりましては、貴重な経験と多くの学びを得ることの叶いました大変有り難い機会でございました。

一方、しょんぼりモンマ리는、しょんぼりもしておられず、広報用映像撮りを早朝のエッフェル塔前で決行、11月パリ狂言会の演目内で謡われる狂言小謡を謡いあげ、トロカデロ広場では清掃ムッシュから不思議そうな視線を受けながら、小舞も一差し舞いあげて頂きました。大切な広報の為ですから人さまの視線などなんのその！また舞台で使用する薙刀を自作すると言い出し、パリのホームセンターやら材木店をハシゴし、2m以上もある長棒を購入、メトロやバスでの運搬不可であろうということから、「んじゃオレ、歩いて帰るわ」と自宅までの道のり1時間余りを長棒担ぎ汗だく徒歩帰宅、と、相変わらずこちら人も目気にすること無くマイペースな行動。日本へ戻りましてからは目下大阪万

博公演に向け、短期間で12面完成を目指し、明けても暮れても面と対峙、制作に励んでおります。食い繋いでゆかためにも、そろそろモンマリ活動の良きパトロンを見つけてなければ?! 役者BAKA女房の苦悩は続くようでございます…。本日はこの辺で。平和への祈りを込めて。



父子それぞれの2025パリ上半期



小笠原尚子(おがさわらたかこ)プロフィール:
“やんちゃ狂言師の裏方古女房” 東京生まれ。神戸→名古屋→横浜→佐渡ヶ島育ち。故八世野村万蔵主宰“わざおぎ塾”にて学生時代に演劇を勉強中、狂言師小笠原匡と出逢い1996年に結婚、伝統芸能の世界に入る。その後、大阪生活を経て2014年よりパリ在住。
現在、パリで狂言普及活動の傍ら、自らは役者業を再開!



フランス人物伝 <23>

～ジョルジュ・メリエス
(映画監督、マジシャン)～

坂本 昭二(龍谷大学)



Marie-Georges-Jean Méliès

前回、リュミエール兄弟によるシネマトグラフと呼ばれる映画装置(撮影、現像、映写)の発明で映像記録が可能になり、この映画というメディアの創世記において世界初の映画監督とされているジョルジュ・メリエスについてご紹介します。

ジョルジュ・メリエス(Georges Méliès: 1861-1938)はパリで高級靴工房を営んでいた両親のもとで1861年12月8日に四人兄弟の末っ子として生まれています。パリ郊外のヴァンヴ(Vanves)にあったリセ・ミシュレ(Lycée Michelet)で学んだ後、パリ5区のリセ・ルイ-ル-グラン(Lycée Louis-le-Grand)で学んでいます。卒業後は父の営む靴工房で働き、1883年に英国のロンドンに派遣され、一家の友人の元で働いていました。ロンドン滞在時にジョン・ネヴィル・マスケリン(John Nevil Maskelyne: 1839-1917)が経営するエジプシャン・ホールでステージ・マジックに出会い、マジックや舞台装置製作を学んでいます。

1885年にパリに戻ったメリエスは父の営む靴工房を手伝っていましたが、1888年に父が引退した際に靴工房の事業は兄に任せて、自分の相続した資金を元手にして有名なマジシャンであったジャン・ウジェーヌ・ロペール＝ウーダン(Jean Eugène Robert-Houdin, 1805-1871)が創設したロペール＝ウーダン劇場を購入し、本格的にステージ・マジックの劇場経営に乗り出します。

運命が大きく動いたのは1895年にリュミエール兄弟が初の映画上映を行ったときでした。メリエスはすぐさまその可能性に魅せられ、自らも映写機とカメラをロンドンでなんとか入手して映画制作を開始します。1896年にはパリ郊外のモントルイユ(Montreuil)に本格的なガラス張りの映画撮影スタジオを建設し多数の映画を製作しています。

当時、リュミエール兄弟はシネマトグラフを事業化し世界各地にカメラマンを派遣して1400本以上の映画を製作しましたが、これらは日常の記録映像で、すぐに飽きられたせいか1905年には映画事業から撤退しています。一方でメリエスは、映画を単なる現実の記録映像からストーリーを語る手段(フィクション映画)へと飛躍させ、ストーリー性やマジシャンとして培った技術や経験を応用した様々な特殊効果の活用など今日の映画で当たり前となった手法を最初に導入して映画制作の礎を築きました。有名なものでは、ジュール・ヴェルヌの小説から着想を得た作品で、1902年に製作された『月世界旅行(Le Voyage dans la Lune)』があります。

メリエス自身が認めていたのですが、ビジネスセンスに乏しかったようで、映画産業の急成長と市場拡大に対応できず財政問題に陥り、さらに第一次世界大戦勃発が追い討ちをかけて彼の事業は終焉、撮影スタジオや彼の作品(フィルム)の多くが失われてしまいます。メリエスは500本以上の映画を製作しましたが、残念ながら200本程しか現存していません。1920年代にはモンパルナス駅で飴や玩具を売って生活している状態でした。しかし1930年代に映画黎明期の功績が再評価されると、1931年にはレジオンドヌール勲章が授与されています。この時のプレゼンターはリュミエール兄弟でした。最後は1938年に癌で亡くなっています。

そして、この映画の魔術師ジョルジュ・メリエスにまつわる物語が2011年に『ヒューゴの不思議な発明』(邦題)としてマーティン・スコセッシによって映画化されています。

(画像はwikipediaより引用)

日本人会活動案内 -各種相談室・講座・活動-

各種相談(会員のみに)

*要予約(電話に限る): 01.53.76.17.58

法律相談(フランスの法律問題) (手配料 5ユーロ)

事前予約の上、電話で相談を受け付けます。

法律上のトラブルを抱えている方は、必ず関係書類をご用意ください。相談内容は職業上の守秘義務により厳守されます。予約は相談日の1ヶ月前から受け付けます。

滞在相談

日本人会にメールでお問い合わせください。contact.ajf@orange.fr

健康相談

日本人会にメールでお問い合わせください。contact.ajf@orange.fr

無料子ども相談室

臨床心理士、神経小児科医、保健師、助産師などの専門家がご相談にお答えいたします。ご希望の方は「こども相談」という件名をつけてkodomo.fr@gmail.com 折口までメールください。

クラブ活動・各種講座

ふらんす俳句会

有季定型を基調に句作の楽しみを味わっています。

代表 樋山なをみ 連絡先 hiyamanaomi@gmail.com

子ども図書館

読み聞かせ 毎月第1および第3水曜日 11h30~13h00。*7月・8月はお休み。

日本語児童図書の貸出・返却は随時。永年登録料: 子供一人/2ユーロ

女声コーラス「みもざ」

コーラスの仲間達と美しいハーモニーを作り、楽しいひとときを過ごしませんか。

日本の歌、ミサ曲、フランス歌曲など。毎週火曜日13:30~16:00、Notre

Dame de Compassion / Place du Général Koenig 75017 Paris (Porte

Maillot) <https://mimosa-club-japon.jimdosite.com/> を参考に。

連絡TEL 06.33.89.56.59(石原) メール: mimosafrance@gmail.com

日本人会アーティストクラブ(NAC)

日本人会会員の美術系アーティストのクラブ。年会費16ユーロ。毎月第一火曜日の

18h頃~20h頃、オペラ界隈のカフェLa Clef des Champs (49, rue des Petits

Champs 75001 Paris、京子食品の斜め向かい)に於いて月例の親睦会を開きま

す。飲み物代は自己負担。NAC会員以外の方の参加も大歓迎です。問い合わせは日

本人会まで。カフェLa Clef des Champsが閉まっているか満席の場合は、以下の

2店を覗いてみて下さい。カフェLe Ventadour 46, rue des Petits Champs

75002 Paris/カフェDalayrac 2, rue Dalayrac 75002 Paris。

次回は8月5日(火)、9月は9月2日(火)の開催です。

マロニエの会

毎月第2火曜日15h~17h茶話会「La Clef des Champs」49 rue des Petits Champs

75001 Paris 第3日曜日&第4水曜日14h30~国際大学都市「日本館」で月例会。

ホーム訪問、講演会、新年会、希望祭参加、郊外農園バーベキュー大会、

バス遠足、美術館・催し物見学、食事会と楽しい企画も盛り沢山。

会報を年3回送付。年会費 20ユーロ

連絡TEL: 06-5170-4955 (二口) 06-2253-7418 (六藤)

ソフトボール大会

春秋の年2大会あり。年齢・性別・国籍に関係なく、個人またはチームでの参加可。

連絡:実行委員長 代理 橋本 勝義 TEL: 06-14-73-37-31

キッズテニス

ARJ16 Tennis Club (Stade Henry de Montherlant : 32 Bd. Lannes 75016 Paris)

キッズテニス 小学生から高校生 毎週火曜日(現地校のバカンスを除く)

17時 2クラス 小学校低学年から高学年生

18時 2クラス 小学校高学年から高校生

ただいま、若干空きがあります。年齢とレベルによりクラスが決まりますので、

メールにてご相談ください。

一般クラス 随時会員募集 初心者クラス、経験者クラスがあります。

火曜日 11時、12時、14時、15時、19時 木曜日 12時、13時、14時、15時

金曜日 11時、14時、15時

個人、グループでのレッスンをお受けします。

お問い合わせ amicalejaponaistc@yahoo.fr

書道同好会

毎週木曜日 15h~17h 参加費: 月20ユーロ

講師: 林 信賢

TEL 代表: 06 22 53 74 18 国際大学都市「日本館」

くもん日本人会教室

水曜日14h00~17h00 土曜日13h00~17h00 詳細はTEL:06 09 66 94 39 (中村)

シャンソンDidier教室

日時: 第2・第4土曜日(16時~18時)

場所: Pavillon de la Sirène

20, rue Dareau 75014 Paris M°Denfert-Rochereau

詳細は下記にお問い合わせください。

ch.tanaka@orange.fr Tel. 06 0383 2674 (田中)

気功教室

毎週木曜19h~20h 全レベル参加歓迎

会場: 天理文化センター 8-12 rue Bertin Poirée 75001 Paris

最寄駅 Châtelet 参加費: 1時間 9ユーロ(日本人会会員割引あり)

気功の他に、太極拳、簡単に見つかる針、マッサージのツボ探し、健康自己管理

の知識等も指導。講師/連絡先: ラン光旭(パリ第6大学医学学院利気功・太極拳

講師) TEL: 06-69-43-54-45 メール: yokogx@gmail.com

健康と美・ウォーキングレッスン

元パリミラノ東京コレクション/現役モデルによるウォーキング・写真のポーズ

ング・メイキャップ・Before & Afterなどニーズに合わせたプライベートレッスン

(コース3回・180€/3h) プロ志望の方、カウンセリング、Zoomオンラインも可

能(非会員: 別途料金)

詳細はお問い合わせください。facustudio@gmail.com TEL:06-2296-0655

講師: 北幸子(所属: Paris: Master Models, Tokyo: Oasis Styling)

子供のための習字教室

土曜クラス: 第2, 4土曜日 11h-12h 場所: 日本人会 授業料: 1回15ユーロ

(日本人会会員料金)。入学随時受付。

お問い合わせ: 六藤 06-22-53-74-18 kayoko94000@yahoo.co.jp

日本館茶の湯会(裏千家流)

於国際大学都市日本館

7月・8月はお稽古はお休みです。

連絡先 nihonkan.cyanoyu@gmail.com

成人学習者向け日本語講座

*現在活動休止中

ヨガ教室 個人レッスンとオンラインレッスンに加えて、今春からグルーブレッスンを再開しました。 詳細はメールにてお問い合わせください。

日時: 平日午後を中心に参加者のみなさまのご都合に合わせて

会場: パリ市内 対象者: 全てのレベル 参加費: 1時間30€から

講師: ラロッシュ・アメリ

問合わせ・申込み: info@vacances-amelie.com (日仏)

川柳パリ会

インターネット上の「NET句会夏雲システム」を利用して開催されるバーチャルな

句会を中心にした活動です。川柳をネット上の句会に投句したり、他の会員の川柳

を楽しんだり、優秀だと思ふ作品を選句して参加することが可能です。

連絡先: 代表 石井 宏 parisici@yahoo.co.jp

※在仏日本人会法人会員名簿は、インターネット・サイトに掲載されています。

日本人会ホームページの次のリンクをご利用ください。

<https://zaifutsunihonjinkai.fr/about-nihonjinkai/houjin-kaiin/amicJ協賛店一覧はこちらのサイトを参照ください。><https://zaifutsunihonjinkai.fr/members-service/amic-j-card/>

日本の企業と個人向けに企業、災害、賠償、
運輸、医療、その他保険のことなら
何でもランボーラボロスへどうぞご連絡下さい

91, rue Saint-Lazare 75009 PARIS
TEL.01.53.32.20.00 まで
FAX.01.42.85.04.65



日本人会「川柳パリ会」

日本人会「川柳パリ会」
第三十七回選句

お題: 規則・健康オタク・米

(秀逸) 仏人は規則破って誇らしげ (おてもやん)

(二席) 動画見てサプリだけ飲む不健康 (せ・ら・び)

最高得点トップ賞 おてもやん

日本人会「川柳パリ会」では、新しい川柳仲間を募集しています。どのようにNET句会が開催されているのか、ご興味のある方は是非「通りすがりの野次馬」として、以下のリンクから既に開催された句会を覗いてみてください。

リンク: <https://ntgm.nolimbre.com/paris/login>
柳号: 通りすがり PW: paris75116

川柳仲間
大募集中!!

＜7月・8月の閉館予定/電話番号変更＞

- 日本人会は7月・8月のみ土曜日も閉館となり、月曜日から金曜日の開館(9h30~12h30 / 13h30~17h30)となります。
- 夏季閉館日: 8月1日(金)~8月20日(水)
8月21日(木)より開館いたします。
- 子供図書館の「読み聞かせ」は7月・8月はお休みです。
- 日本人会の法律相談は7月・8月はお休みです。
- 閉館期間中の「在仏日本人会からのお知らせ」は休刊いたします。
- 日本人会の代表電話番号が変更になりました。
新しい電話番号は **01 53 76 17 58** です。

「72時間サバイバルキット」*

*日本人会の4月2日付「在仏日本人会からのお知らせ」より抜粋

欧州連合(EU)は2025年3月26日に、加盟各国の市民に対し、危機発生時に最低72時間自立して生存できる「72時間サバイバルキット」の準備を呼びかけました。これは、軍事的脅威やサイバー攻撃、自然災害、産業事故などのさまざまな危機に対して、自己防衛能力を高めるための広範な戦略の一環です。EUが推奨するキットには、以下のようなアイテムが含まれます。

飲料水: 1人1日最低1リットル / 食料: 保存可能な食品、缶詰、エネルギーバーなど栄養があり、調理不要なもの / 重要な書類: 身分証明書のコピー、予防接種記録、保険契約書 / 現金 / 携帯電話の充電器とモバイルバッテリー / 電子機器: 懐中電灯、手回しラジオ / 実用的な道具: スイスアーミーナイフ、ライターまたはマッチ / 眼鏡や補聴器(必要な場合) / 重要な書類を水濡れから守るための袋 / 救急キット(包帯、消毒剤、鎮痛剤、特定の医薬品)

サバイバルキットは、ご自分で準備することも、購入することも可能です。「レジリエンスバッグ(sac de résilience)」または「サバイバルキット(kit de survie)」といった名称で販売が開始されています。参考: <https://fr.euronews.com/culture/2025/03/20/un-manuel-de-survie-sera-envoye-a-tous-les-menages-francais-avant-lete>

【御礼 日本祭】

5月25日(日)の日本祭には多くの来場者をお迎えすることができました。ブース、スペクタクル、ボランティア、協力企業の皆様に篤く御礼申し上げます。

(協力企業)

商品提供: 欧州味の素食品、Carrée Pain De Mie、虎屋フランス
ブース展開: 全日本空輸、日本航空、日本政府観光局、Kitokito、レストランCococo、レストラン中川、Misato、桃花
開催協力: パリ国際大学都市日本館、日本トランスユーロ

(日本祭サイト)

<https://zaifutsunihonjinkai.fr/activities/kibousai/>

日本の四季のレシピをフランスで

今日の献立を何にしようか考えます時に、季節の野菜を、そして、何がおいしいか、何を食べてもらいたいかを考えます。今日も、「おかえりなさい、お疲れ様でした」の気持ちをたくさん込めて作りました。日本に、私が大学生の時から通うとんかつ屋さんがあります。今も 84 歳のご主人が、お元気でお店を守り続けています。子供たちの大好きな一品です。本格的な夏がやってきます。よい睡眠、旬の食べ物で、どうぞお元気に過ごしてください。

【梅しそ入りとんかつ定食】

豚ひれを薄くのばし、梅干しをペースト状にぬり、紫蘇を挟んで揚げます。余った粉とパン粉は、少し砂糖を入れて、丸めて揚げると、子供が喜んで食べてました。味付けは、そのままか、レモンとお醤油でどうぞ。

赤かぶの葉と豆腐の味噌汁
きゅうりと梅干し、紫蘇のさっぱり漬け

デザートには、熟したマンゴをミキサーでとろとろにしてソースにしたマンゴパナコッタです。

【この季節の我が家の定番料理】

赤ピーマンのスープ

夏が旬、太陽の味、赤ピーマン。玉ねぎ、ピーマンを油で炒め、じゃがいもも炒めます。味付けは、塩、胡椒。

野菜サンドイッチ



ピクニックの時に、よく作ります。トマト、茄子、ズッキーニ、人参を薄くスライスして焼き、みじん切りにしたネギも炒めます。好みのパンに、野菜をはさみ、アルファルファもはさみます。

冷やし蕎麦

ゆでた蕎麦に、そばつゆをかけます。そばつゆは、みりんを煮切り、醤油、水を加え、こんぶ、かつおぶし。千切りの人参、きゅうり、厚揚げを薄く切り 炒めたものをのせ、アルファルファをトッピング、美しい抹茶氷を添えました。お水にこの氷を入れてお出しするのもいいです

ね。今日もどうぞゆっくり召し上がって下さい。

* 里奈のおすすめデザート *
簡単でヘルシーな「チーズケーキ in a cup」

子供の時から、チーズケーキが大好きでした。このレシピは、簡単に作れて、身体にもやさしく健康的です。トッピングは、お好みでナッツ、ドライフルーツ、ブルーベリー、など。苺のジャムもおいしいですよ。レシピ 二人分フォーマージェブロン 100g、豆乳ヨーグルト 100g、メープルシロップ 大さじ 1 バニラパウダー 小さじ 1 をまぜ、コップに注ぎます。冷やしてから、お好みのトッピングをのせてどうぞ。



倉田 節子・フィエベ 里奈

インスタグラム: @lina_fievet

ウェブサイト: linafievet.com

著書『LA TRADITION DU VEGETAL(éditions la plage)』

の購入は一般書店及びeBookで

<https://www.laplage.fr/produit/386/9782383380443/japon>




終(つい)のデザインのススメ

己の最後を決めるための 日本における相続・遺言の基礎知識 (67) (日仏間も視野に入れて)

戸籍のはなし その2

日本の戸籍に関する改正及び施行がありましたので、その前提として戸籍にまつわる話をしています。今回は、近時の改正について簡単にご紹介します。

◆戸籍に“フリガナ”が振られることになった

令和5年の戸籍法(昭和22年法律第224号)の一部改正を含む行政手続のデジタル(DX)化を進めるための法律群の改正があり、本年令和7(2025)年5月26日に施行されました。これにより、戸籍にフリガナが記載されることになります。

これまでの戸籍では、氏名のフリガナは記載事項ではなく、読み方は戸籍上公証されていませんでした。この改正法の施行により、戸籍の記載事項に氏名に加えて、新たにそのフリガナが追加されることになり、読み方も戸籍上公証されることとなります。

各種の行政手続をデジタル化するには漢字では困難を伴い、フリガナなどの簡潔な表記が重要であるため、このような改正がなされました。また今年の春から不動産の登記でも、新たに不動産の名義人となる(売買や相続で取得した)場合には、フリガナを登記所に申出をする仕組みに変更され、氏名の読み仮名は重要になってきています。また、戸籍の翻訳を海外で利用する際、読み仮名の翻訳に迷うことがありましたが、それも少しは軽減されそうです。

◆フリガナは、こうやって振られる

日本国内に住所がある日本国籍の者には、各本籍地の自治体から順次郵便でフリガナに関する通知が送られます。

本人から、「読み仮名が違う!」との特別の申出が無ければ、通知から1年経過後には、そのフリガナが戸籍に記載されます。

詳しい制度は、こちらをご参照ください。

<https://www.moj.go.jp/MINJI/furigana/index.html>

(今度は、戸籍(こせき)のきつねということで「コセキツネ」がこの制度のキャラクターのようです。ゆるキャラ好きですね・・・)



◆在外日本人はどうする?

では、日本以外に住所がある方(日本から住所を除いた者)はどうなるのか? については、上記のHPに特に記載がないため、法務省、外務省に聞いてみたところ、次のような取り扱いのようです。(ただし、改正直後のため、今後、取り扱い方法は変更となる可能性があります)

まず、日本に住所の住民登録がない場合、世界各地の在外公館(領事館)から在外日本国民への特別の通知は「ない」そうです。ただし、昨年から在外の日本国民は日本でマイナンバー登録を行いマイナンバーカードを持てることになりましたので、当該カードを受け取っていただければ、マイナポータルというマイナンバーに紐づいたサイト(HP)で、各自のフリガナが確認できるそうです。マイナンバーを持っていない海外在住の方でも、本籍地役場の住民基本台帳に、すでにフリガナの登録がある場合は、本籍地役場の判断で、フリガナが振られることもある、ということです。ただし、当該行政の判断によるので、一律の取り扱いではないようです。もし、このフリガナが間違っていた場合には、本人からの届出により、1回限り、フリガナの記載を変更できるとのこと。なお、在外公館(各国領事館)では、フリガナの届出はできる、とのこと。

同じ漢字でも、読み仮名が異なることはとても多く、先日も遺言作成の支援の際、宜子というお名前を「のぶこ」さんかと思ったら、「のりこ」さんでしたということがありました。

あくまでも、行政手続き上のDX化に資する制度改正ですから、普段の生活には関係ないですが、数年に1度というなんらかの行政手続きの際に、氏名の読み仮名が異なるために、手続きが途中でストップしたりする可能性は0(ゼロ)ではないので、予防的にこのような制度変更があることを知っておくのも良いと思われます。あと、少し心配なのは、新しい制度が出ると、それにあわせて「詐欺」事件が勃発することです。領事館からは、通知はされませんが、おかしい通知が来ても、慌てないようにしてください!

今後、この制度の新しい詳細な情報が出た場合には、改めてお知らせしたいと思います。(つづく)



司法書士 桑瀬 登起子(くわせ ときこ 会員)
Consulting Office 桑瀬
TEL: 03-3354-0445 / FAX: 03-5363-8971
〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町15-38-202



第26回 「大豆とイソフラボンについて考える②」

大豆はスーパーフード? はたまた、ホルモンバランスを乱す? 今回は大豆との付き合い方について考えてみます。

大豆は、原産地である中国では5000年以上前から、日本でも1200年以上前から栽培されている穀物および野菜で、植物性タンパク質を多く含み、その他炭水化物・脂質・食物繊維・カルシウム・カリウム・マグネシウム・亜鉛・鉄・ビタミンE・ビタミンB1・葉酸といったさまざまな栄養素が含まれている優良食品です。日本人にとっては昔から食べているもので、後期離乳食として使われるほど慣れ親しみ、ヨーロッパとは比較できないくらい大豆との関係も長く、日本人はヨーロッパ人よりも遺伝子レベルにおいても身体が大豆を許容できるのかもしれない。

通常、みなさんが耳にする大豆イソフラボンは糖が結合した構造をしています。糖がはずれた構造のものを「大豆イソフラボンアグリコン」といい、これがフィトエストロゲンと呼ばれるものです。

現在日本では大豆イソフラボンアグリコンの安全な一日摂取目安量の上限が70~75mg/日とされており、フランスでは1mg/kg/日、つまり60kgの体重の方で60mgに設定されています。食品では、豆腐一丁350gで71mg、納豆1パック45gで33mg、豆乳200mlで60mg、お味噌汁一杯分(味噌15g)で7.5mgのイソフラボンアグリコンが含まれています。(厚生科学研究調べ、フランスの大豆製品の場合イソフラボンアグリコン含有量が異なることがあります)例えば、朝ごはんにご飯と納豆(1/2パック)を食べ、夜ご飯にお豆腐を半丁毎日食べてもイソフラボンアグリコンは59.5mgで日本の場合は目安量内ですね。ここで意外と要注意なのが豆乳! フランスの普通のスーパーでも手に入る豆乳は、ソイラテや豆乳スムージーなどで200mlを簡単に摂取できますが、このほかに何か大豆製品を食べてしまうとすでに一日摂取量をオーバーしてしまう可能性があります。

また、ここ数年の間でフランス国内でも一気に大豆食品の流通量が高まりましたが、私が渡仏した2000年代前半はここまで簡単に手に入りませんでした。となると、私はかれこれ20年近く大豆製品から遠ざかっていたのも事実。大豆製品から離れていた期間が長かった場合は、やはり少しずつ摂って身体を戻していくということも大切です。

個人的な意見ですが、サプリメントの摂取はあまりお勧めしません。食品から摂る方が長い目でみると身体には優しいはず。 (即効性もないですが。) サプリメントは保険の効かないお薬だと思って、身体と相談しつつ、そして規定量を守り慎重に摂取してください。

大豆に関する多くの研究結果やエビデンスに基づいた情報が氾濫し、健康面でのメリットがフォーカスされるあまり、安易に摂取できるサプリメントなどで手軽にイソフラボンのみを過剰に摂ることは、却って様々な病気の原因となりうる諸刃の刃であることは間違いありません。逆に、日々の生活で食品として摂取する大豆については、余程の量を毎日食べない限り、健康を害するリスクはかなり低いのではないのでしょうか。なお、フィトエストロゲンが含まれる食品は大豆のみだけでなく他にも存在します。このように氾濫する情報に流されることなく、日本人の身体にじっくりくる大豆製品を、適度にいただきたいものですね。大切なことは、色々なものを食べることに尽きます。

参考文献:

厚生労働省 大豆及び大豆イソフラボンに関するQ&A

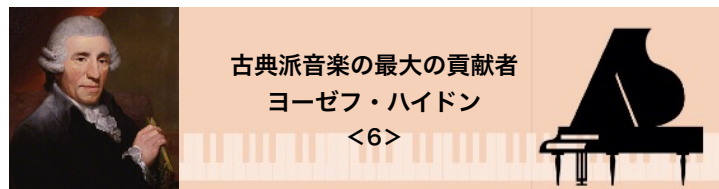
<https://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/02/h0202-1a.html>

ANSES(食品環境労働安全庁VTR long terme par voie orale pour les isoflavones

<https://www.anses.fr/sites/default/files/VSR2022SA0221RA.pdf>



小椎尾 真衣(こじお まい)
Diététicienne-Nutritionniste /管理栄養士
インスタグラム
<https://www.instagram.com/diet.japonaise/>
(日々の食生活をゆるーり綴っています)



何故**ハイドン**が**古典派音楽**の最大の貢献者と言われるのか、その理由を綴ろうと思います。

1780年、**オーストリア**・女帝マリア・テレージアが崩御しました。1781年、25歳の**モーツァルト**がザルツブルク大司教と決別して、**フリーランス**の作曲家として**ウィーン**に移り住みます。その年にハイドンは《弦楽四重奏曲op.33〈ロシア〉Hob. III: 37-42》を書き上げます。ハイドンは「**斬新な特別な方法で作曲した**」と述べ、ソナタ形式の展開部で「**主題労作**Thematische Arbeit」の原理を成し遂げました。モーツァルトはこの弦楽四重奏曲を精細に研究し、1782-85年に《弦楽四重奏曲KV.387,421,428,458,464,465》を仕上げ、ハイドンに献呈しました。通称《ハイドン四重奏曲》です。

その「主題労作」とはソナタ形式の主題提示に続き展開部と再現部になるのですが、ハイドンは展開部を**ソナタ形式の中核点**に作り上げました。重要性を持たせたのです。

すなわち、主題提示の後、反復記号を持つ**複縦線**から主題が再び登場するまで、主題の片鱗を**エピソード的**につなぎます。それまでの手法ではなおざりにされた部分で、単に**反復進行**を繰り返し挿入され、簡単に元へ戻される場所でした。

様々な片鱗を引き出せる潜在力を持つ主題、それまでの作曲家たちが作っていた、ただ「美しい」「綺麗な」アリアのようなものでは「**展開部での激しい摩擦**」に耐えることは出来ないであろうとハイドンは考えていたのです。

古典派音楽の楽曲形式として、ソナタ形式は基本的に**対称と発展**です。提示部で楽章の基本となる意志の強い**第一主題**と抒情的な**第二主題**が示されます。

展開部では、主題材料が積極的、劇的に取り扱われ、自由な様式で**即興的な流れ**でも、または厳格な様式の**対位法的**な書法や**多声的**な書法でも構いません。作曲家の考えの理想を追いつつ、再現部へ結合されます。展開部で、この両主題に手が加えられるのですが、ここで作曲家の力量と能力、想像力、技法を見極める尺度となります。

再現部は最初の二つの主題を大体そのままで再帰させ、**アーチ形構造**を完結させます。

ハイドンの考え方で、四重奏曲の提示部では各声部は互いに独立しており、主要主題が声部から声部へ移されていきます。各々の声部は独自の音楽の想念を追いつつ、論議のテーマから逸脱することがないように書かれていきます。次に派生する「展開部での激しい摩擦」に耐えうようにも考慮しなければなりません。

モーツァルトはハイドンの《**ロシア四重奏曲**》から「弦楽四重奏曲の書き方を習った」とこの《**ハイドン四重奏曲**》をハイドンに献呈したわけですが。この曲をハイドンは聴き、モーツァルトの父**レオポルト**に「神にかけて誓います。あなたのご子息こそは、私が直接、間接に知る作曲家のうちで最大です」と称賛しています。女帝マリア・テレージアが「**あの物乞い親子に気を付けなさい**」と皇子皇女にくぎを刺したのは思慮深い女帝だからこそ気づいたのかもしれませんが。**ベートーヴェン**の「不滅の愛人への手紙」の宛て先が誰かを、99%の確率で立証した**メイナード・ソロモン**博士はモーツァルト父子の確執を喝破しています。21歳の**ヴォルフガング**がヴェルサイユのオルガニストを断ったのは、同居寄生を狙う父親**レオポルト**と姉**ナンネル**に、**コンスタンツェ**との生活が邪魔されることを恐れたモーツァルトでしたが、博士は衝撃的な事実も突き止めています。神童時代にモーツァルトが稼ぎ出した莫大な10000グルデン以上（**1億円以上**）を息子に渡さずに隠し、ナンネルに相続させました。ヴォルフガングは知る由もなかったのです。



山崎 孝(やまざき たかし) 1937年生まれ。東京藝術大学卒業。ピアニスト

グローバル時代のコミュニケーション

～国や文化を超えて真に信頼関係を作るコミュニケーション～

【第49回】

みなさまこんにちは。

あっという間にもう7月ですね。気象庁は6月27日(金)、「九州南部、九州北部、四国、中国、近畿の各地方が梅雨明けしたとみられる」と発表しました。平年より3週間くらい早く、九州北部と四国、中国、近畿は、統計開始以来、最も早い梅雨明けとなったそうです。梅雨入りの発表後ほとんど長雨はなく、なんか拍子抜けしてしまいました。気候変動はいよいよ本格的で、四季を感じる事が難しくなってきました。

パリの季節感はいかがですか？

さて、このコラムでは、これまでの私の経験体験から、グローバル人材に必要な考え方やスキルのベースとなっているものについて、いろいろとお話させていただいています。

今回は近年日本でもとても重要視されている「組織開発」についてお話しさせていただきたいと思います。

今回も前回から引き続き組織開発を成功させる手法についてお話させていただきます。

成功のためには、やっていくプロセスが重要です。私は組織開発成功のプロセスを以下のように定義しました。

- (1) 理想の姿を考える
- (2) そうなっていない要因分析
- (3) 解決策

今回は(3) 解決策の続きをお話させていただきます。

前回は

- 1 ゴールを明確にする
- 2 組織開発を行うリーダー教育育成の内容をしっかりと吟味する
- 3 リーダーだけでなく部下側にも協力をさせていただく研修
- そして今回は4からです。
- 4 研修を受けたリーダーには、個別のコーチングで定着を後押しすることです。

最初はどんな方でも新しい手法にはとまどったり、混乱したり、つまずくこともあります。つまずくと必ず行動が止まってしまう。

そこで受講者には個別のコーチングを行います。座学で習ったことを自組織でどのように展開していくか？ 個別の目標を設定し、学んだことを活用して理想に向かって行動を応援します。個別の組織内の人間関係も扱います。この個別のコーチングによって、研修内容が、自分の課題解決にどのように生かされるのかを体得し、一歩ずつ自信を持って、自組織の改革に取り組むことができるようになります。

そして最後に

- 5 更に定着させるための仕組みが重要です。

人間には現状維持システムという、本当に強力で厄介な自己防衛プログラムがあります。これによって新しい取り組みを巧みに元の状態に戻そうと働きます。ほとんどの行動変容が長続きしないのはこの現状維持システムが働いてしまうからなのです。

この現状維持システムに対抗するのは、新しくやったことがうまく行った。新しい手法のほうが自分にとってより良いもので、安心であるということが無意識が理解するしか方法がありません。現状維持システムがこちらの方が良いと認識したらそれを維持しようとするのです。定期的フォロー CAF 勉強会を内部で発足するなど忘れないでやり続けられる、しか、しくみを作ることも重要です。

まとめ

- ・組織開発は、小さな組織から大きな組織まで、組織がある単位で展開することが可能
 - ・組織開発は、組織を構成する複雑な人間関係、組織目標が多様なことから難しく感じることが多い
 - ・組織開発を成功させるには、その目標ゴールを明確にし、理想の組織をチームメンバーと一緒に牽引できる、組織開発を実践できる「人間力」をもった、リーダー育成が最重要
 - ・さらに、うまく実践できるまでは、個別のコーチングにとって学んだことを現場の課題で実践できる応援が必要
 - ・継続の仕組みで定着する仕組みも必要
 - ・組織開発の経験豊富なプロフェッショナルに相談する
 - ・業者と信頼関係を築き、役割を明確にし、進めていくことも重要
- いかがでしたか？、今最も重要と考える内的変革を進めることのできる組織への、組織開発手法について、少しでも皆様のお役に立つことができれば幸いです。

次回以降もグローバル人材や組織開発に必要な考え方やスキルのベースとなっているものについて、いろいろとお話しさせていただきたいと思います。

大山裕之

コンティニュー株式会社 代表取締役社長
社団法人コーチアプローチファシリテーター連盟 理事長
国際コーチ連盟認定プロフェッショナルコーチ

場所と

人の出会い

[58]

アール・ヌヴォーとジャポニズム

19世紀のヨーロッパは産業革命の時代です。各国で人口の増加と都市への集中が起こり、商業や交通が発展し世の中が大きく動いていく時代です。経済が発展していったヨーロッパの国々で国内博覧会が開催されるようになると、フランスは各国に国際展覧会を提唱し、最初の国際展覧会が1851年ロンドンで開かれることになりました。日本はその2年後のペリー来航により、1858年ついにアメリカ、イギリス、オランダ、ロシア、フランスとの間に五カ国通商条約が成立し鎖国を解きます。幕府は直ちに1862年にヨーロッパに使節団を送ります。使節団は第二回ロンドン万博（1862年）の開幕に賓客として出席し興味を持って何度も会場を訪れています。日本が公式に参加した最初の万博は1867年のパリ万国博覧会です。幕府は親善使節として将軍・徳川慶喜の弟徳川昭武を名代として派遣します。また諸藩や商人にも出品を呼びかけています。参加の表明をしたのは薩摩藩、佐賀藩。商人清水卯三郎です。日本からの展示物は蒔絵、屏風絵、漆器、陶器、和紙、家具、刀剣、刀装具、象眼、竹細工、浮世絵、錦絵、着物、帯などの伝統工芸品で商人清水卯三郎は会場に日本家屋を用意し、そこでは柳橋の芸者3人が茶を振舞ったりしています。日本の展示物は大きな注目を集め、ジャポニズム現象を引き起こすきっかけとなりました。印象派の画家たちがジャポニズムの影響を受けた事は有名です。これは日本が開国したことによって西洋に日本美術を見る機会が増え、他方では開国は日本に西洋の芸術が流入することを意味していました。それではジャポニズムを起こした人々にはどのような人たちがいるのでしょうか？

★フェリックス・ブラックモン（銅版画家）・1856年友人の印刷所で日本の焼物の包み紙に利用されていた北斎漫画を発見、一筆で物の特徴を捉えたその線の正確さ、力強さに圧倒され、また北斎が庶民の何気ない生活風景を画題に取り上げている事が衝撃でした。

★エルネスト・シェノー（美術評論家）・1867年の万博の『産業芸術振興委員会』の一人だったシェノーは『日本芸術』と題した講演で『日本の美術工芸品は左右対称性を持たずその自由で調和のとれた美しい装飾は日本の美的で独創的な様式をもたらしている。とりわけこれらの様式をもたらすのは日本人の自然への解釈である』と日本を絶賛しました。

★ゴンクール兄弟（作家）・フランスにおけるジャポニズムの普及に貢献しました。弟ジュールの死後兄エドモンは悲しみを癒すために全ての収入を日本美術収集に費やしました。晩年は北斎、歌麿を始め、日本美術の紹介に努めジャポニズムの先駆者の一人となりました。それは林忠正による全面的な協力のお陰でした。（遺言により彼の遺産を基に文学賞としてゴンクール賞が創設されました）

★サミュエル・ピング（美術商）・日本美術を扱う美術商となり浮世絵や日本工芸品を扱う店をオープンして成功します。1895年ピングは『アールヌボー』の名で画商店を開きます。そこには日本美術だけでなくラリックやティファニーなど同時代の工芸品も扱い、店はアール・ヌヴォーの発信地として繁栄しました。

Tadamasaya Hayashi
(1853-1906)

★林忠正(美術商)・1878年パリ万博に参加する起立工商会社の通訳として渡仏します。当時のパリは日本美術への人気が高く印象派の画家や評論家などは連日日本の展示物を見学に通い、林の流暢なフランス語の説明に耳をかたむけ質問を浴びせたりしました。彼は万博の後もパリに残り『日本美術の情報と案内』と名付けた店をオープンしました。林の日本文化の豊富な知識と人柄に魅せられた日本美術愛好家たちはその小さな店に足繁く通いました。彼は1886年には『パリ・イリュストレ』と名付けられた絵入り雑誌の日本特集号で日本人として初めてフランス語で日本文化紹介の記事を書きました。

こうしてヨーロッパ各地域の美術工芸品と同化しそれぞれ特徴あるアール・ヌヴォーが開花していく事になります。アール・ヌヴォーはジャポニズムから多大な影響を受けたと言われていますが、そのジャポニズムがヨーロッパの芸術に与えた具体的な影響とはどのようなものだったのでしょうか？それは次のように言われています。まず構図に見られる非対称性と大胆な余白の取り方、遠近法の欠陥（平面表現）、鮮やかで大胆な色彩または中間色の使用法、線描と輪郭線による明確な描写などが特徴です。またモチーフには植物や昆虫など自然への深い敬意が感じられます。今日、日本美術から影響を受けた19世紀末のヨーロッパ装飾技術を『アール・ヌヴォー』と名付けていますがそれらは宝飾品、工芸品、陶磁器、家具、ガラス工芸品、書籍、絵画、建築など多岐にわたっています。これらの作品はフランスを始めイギリス、ドイツ、スペイン、ベルギー、オーストリア、イタリアなどヨーロッパ全域にまたがった芸術活動でした。しかし1910年代に入ると産業化が進み科学技術が急速に発展し近代の機能主義、合理主義が絶対的な世の中になり、職人の手作りの高価なアール・ヌヴォーはその時代のコレクター達の趣味にはそぐわなくなってしまうました。1920年代になると世の中の趣味はアール・デコへと次第に移っていきました。

フランス政府公認ガイド
宮永 佳子1886年5月4日号
Paris Illustré
Le Japonの表紙パリ7区ラップ通り
の建物入り口

パリ、オペラ座内

パリ、ギャラリー・ラファイ
エットデパートの丸天井

自選句集 156

(入会順)

立	凛	血	蒼	立	花	連	父	陽	わ	背	し	た	う	立	仏	夕	麦
葵	と	の	穹	葵	あ	合	の	を	ら	く	づ	だ	す	葵	壇	雲	の
雫	咲	色	に	根	や	ひ	日	受	び	け	一	墨	映	花	の	い	秋
光	く	に	友	の	め	と	何	て	食	さ	燈	の	画	は	大	っ	黄
れ	青	咲	ほ	深	ブ	へ	も	ど	み	を	ひ	夜	の	ち	和	ま	金
り	き	誇	め	こ	ロ	と	要	こ	そ	残	道	あ	見	あ	を	一	面
梅	あ	り	め	み	ンド	去	ら	ま	み	し	に	ふ	あ	や	さ	面	さ
雨	や	け	夏	せ	の	り	ぬ	伸	え	祭	に	ひ	ひ	め	や	や	や
日	め	り	立	ど	女	ぬ	と	び	る	髪	け	立	立	か	と	と	と
和	迷	ア	こ	こ	(	父	父	る	立	葵	り	頃	頃	な	花	花	花
	ひ	マリ	ころ	ころ	と)	の	の	る	葵		に			な			
	な	リス			類	言	言	る			け			を			
	し				よ						り			可			
	迷				せ						に			義			
	ひ				ど						け			勝			
	な				こ						り			勝			
	し				ころ						に			義			
	迷										に						
	ひ										に						
	な										に						
	し										に						
	迷										に						
	ひ										に						
	な										に						
	し										に						
	迷										に						
	ひ										に						
	な										に						
	し										に						
	迷										に						
	ひ										に						
	な										に						
	し										に						
	迷										に						
	ひ										に						
	な										に						
	し										に						
	迷										に						
	ひ										に						
	な										に						
	し										に						
	迷										に						
	ひ										に						
	な										に						
	し										に						
	迷										に						
	ひ										に						
	な										に						
	し										に						
	迷										に						
	ひ										に						
	な										に						
	し										に						
	迷										に						
	ひ										に						
	な										に						
	し										に						
	迷										に						
	ひ										に						
	な										に						
	し										に						
	迷										に						
	ひ										に						
	な										に						
	し										に						
	迷										に						
	ひ										に						
	な										に						
	し										に						
	迷										に						
	ひ										に						
	な										に						
	し										に						
	迷										に						
	ひ										に						
	な										に						
	し										に						
	迷										に						
	ひ										に						
	な										に						
	し										に						
	迷										に						
	ひ										に						
	な										に						
	し										に						
	迷										に						
	ひ										に						
	な										に						
	し										に						
	迷										に						
	ひ										に						
	な										に						
	し										に						
	迷										に						
	ひ										に						
	な										に						
	し										に						
	迷										に						
	ひ										に						
	な										に						
	し										に						
	迷										に						
	ひ										に						
	な										に						
	し										に						
	迷										に						
	ひ										に						
	な										に						
	し										に						
	迷										に						
	ひ										に						
	な										に						
	し										に						

日本人会フランス語講座 2025年9月～12月

月		火		水		木		金		
9:45-12:00 入門_1 NEW! 1 Laurent	10:00-12:15 A1/A2 4 Florence	10:00-12:30 会話 B2+ 5 Muriel	9:45-12:00 A1+/A2 8 Marine	9:45-12:00 A2 10 Laurent	11:00-12:00 発音マスター 18 Muriel	9:45-12:00 A2 14 Laurent	9:45-12:00 A1 16 Laurent	10:00-12:15 A2 24 Florence	9:45-12:00 入門_3 30 Laurent	9:45-12:00 会話 A2+ 20 Muriel
12:30-14:45 A2+/B1 2 Florence	12:30-14:45 入門_3 34 Laurent	12:30-14:45 Conversation A2 9 Muriel	13:00-15:15 入門_1 NEW! 11 Laurent						13:00-15:15 入門_4 35 Muriel	13:00-15:15 A1 17 Laurent
17:15-18:45 DALF C1 6 Muriel		17:15-18:45 DALF B2 12 Muriel		17:15-18:45 DALF B1 15 Muriel		17:00-17:45 KIDS 29 Laurent	17:15-18:45 DALF A2 19 Muriel			
19:00-20:30 入門_4 7 Muriel		19:00-20:30 入門_1 NEW! 28 Laurent	19:00-20:30 会話 B1/B1+ 33 Muriel		19:00-20:30 A2 26 Laurent	19:00-20:30 入門_2 27 Muriel	19:00-20:30 A1 21 Laurent			
									オンライン	日本人会 教室

オンライン

日本人会
教室

日本人会では、**9月15日(月)**から始まるフランス語講座の生徒を募集しています。

- ・これまでフランス語を勉強したことのない方向けのクラスから、DALF C1受験用の上級者クラスまでレベルに合わせてお選びいただけます。
- ・楽しい雰囲気の中で学習できる「教室クラス」と忙しい方などが移動せずに授業を受けられる「オンラインクラス」があります。(教室クラスは定員8名、オンラインクラスは定員6名。少人数での効果的学習が可能です。オンライン授業にはTEAMSを使用いたします。)
- ・日本人の弱点を知り、日本人の指導に精通した講師が揃っています。
- ・今期新設のクラス：はじめてフランス語を学習する方向けのクラスを新設いたしました。

■月曜9時45分～12時 入門_1(教室クラス)

■火曜13～15時15分 入門_1(教室クラス)

■火曜19時～20時30分 入門_1(オンラインクラス)

*入門1のお試し受講は授業進行上の都合から第2回目までとさせていただきます。(その他は残り8回前まで)

- ・DALF対策講座は Muriel NAVARRO講師(DELFC認定官)による試験対策講座です。一般の語学学校では不可能な、日本人が間違えやすい点を徹底指導。非常に高い合格率を誇ります。DELFC/DALFのクラスはお試し受講であっても受講前にレベルテストを受けていただきます。
- ・日本人会のフランス語講座は18歳以上が対象です。/KIDSクラスは小学生以上が対象です。
- ・お一人2クラスまで体験受講(違うクラスを2つ。同じクラスを2回ということではありません)をしていただけます。/日本人会会員でない方も体験受講は可能です。
- ・途中入校も可能ですが(その場合、料金は回数割で15%割増)残り授業数8回以降になりましたら無料体験および途中入校はできませんのでご了承ください。
- ・オンラインクラスはフランスの地方、日本からの受講も可能です。
- ・講座の申し込み人数が3人に達しない場合はそのクラスは開講しない場合がございます。
- ・日本人会フランス語クラスの受講は日本人会会員に限りです。

フランス語レベル目安は以下のリンクよりご覧ください。

https://zaifutsunihonjinkai.fr/wp-content/uploads/2022/06/2022_SEP_niveaux_francais.pdf

日本人の特徴を知り尽くした講師陣による授業

Mme Florence MEHRVAR
Mme Marine VALLE
Mme Muriel NAVARRO
M Laurent LOYER

料金表と授業のスケジュールは下記リンクよりご覧ください。

<https://zaifutsunihonjinkai.fr/non-category/post-80264/>

問合せ・申込:

Tel. 01 53 76 17 58

coursfr.ajf@gmail.com

目次

第97回全パリ・ソフトボール大会	1	7月8月の閉館予定/電話番号変更	8
特集: 絵を描く理由が、変わっていく	2	「72時間サバイバルキット」	8
「パリ症候群・フランス語版」	3	御礼 日本祭	8
補習校だより	3	日本の四季のレシピをフランスで	8
パリ日本文化会館事業案内	4-5	終(つい)のデザインのススメ	9
在仏日本人会2024年会計報告	5	フランス生活養生訓 第26回	9
舞台裏より愛をこめて vol.23	6	ヨーゼフ・ハイドン <6>	10
フランス人物伝 <23>	6	グローバル時代のコミュニケーション	10
日本人会活動案内	7	場所と人の出会い <58>	11
日本人会「川柳パリ会」	8	ふらんす俳句会	11
		日本人会フランス語講座	12

日本人会会報 Journal Japon

年6回発行: 第50巻4号(通巻314号)

発行人 片川 喜代治
編集人 高橋 幸隆
レイアウト 杉山 清美
発行 在仏日本人会

Association des Japonais en France
(旧) Association amicale des ressortissants japonais en France
9, Av. Marceau 75116 Paris
TEL: 01-53-76-17-58

月～金 du lundi au vendredi 9:30-12:30 / 13:30-17:30
<https://zaifutsunihonjinkai.fr/> contact.ajf@orange.fr

*サイト内「会報」「お知らせ」のバックナンバーを
閲覧する際のパスワード: heian2020

*本誌の無断転載を禁じます